

【特集】授業づくりのヒント①「算数・数学」

次期学習指導要領の改訂に向けて、令和8年5月15日(金)に「中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 算数・数学ワーキンググループ(第10回)」が行われました。その参考資料の中に、現在の算数・数学科における課題や探究的な学びについて次のように記されています。

※令和8年5月15日算数・数学WG資料「とりまとめに向けた検討及びその他の論点・検討事項について」より一部抜粋

<課題>

- ・各種学力調査では、学校段階・学年が進むにつれ、算数・数学を楽しいと好意的に捉える児童生徒が減少する傾向がみられる。
- ・授業の内容が「よくわかる」と回答した児童生徒の割合が減少している。
- ・算数科・数学科は学習内容の系統性・連続性が極めて強いことから、個々の単元におけるつまずきがその後の学習に大きな支障をもたらし、その結果、算数・数学への苦手意識が確固たるものになっていくという構造がある。

<探究的な学びについて>

- ・学習に対する興味・関心が低下している傾向がある中、児童生徒が学びの意義を実感するとともに、日常生活や社会の事象を数学的に考えられるようにするため、小・中・高等学校の授業における探究的な学びは引き続き重要

これらのことから、児童・生徒に算数・数学の授業の内容が「よく分かる」と実感できるような「探究的な学びによる授業の改善」は喫緊の課題です。

そこで、今回「授業づくりのヒント」として「探究的な学びによる授業の改善」のポイントをお示しします。ぜひ、日々の授業に活用してください。

課題の発見

- 問題場面から、課題を見いだす導入
 - ・児童生徒の疑問を掘り下げるような発問：「この問題を解くには、何が必要だろう？」
 - ・課題の文末表現：「～だろうか？」等の疑問形
 - ・既習事項との異同を確認しながら、本時で考えるべき課題を焦点化：「前時の計算とどこが違うかな？」

情報の収集

- 課題の解決への見通しをもつ場の設定
 - ・問題場面の前提条件や関連する既習事項に気付ける手立て：用語や公式等の掲示物
 - ・予想を確かめられるような手立て：具体物の観察やICT機器の活用
 - ・数学的な処理が適切にできる支援：図や表、グラフ等の活用

整理・分析

- 数学的な考察の視点が明確になった比較検討
 - ・根拠や理由を明らかにする
 - ・提示された考えの関連性や既習の内容との関係についての話し合い
 - ・統合的・発展的に考える場面の設定：単なる発表会にならないように！

まとめ・表現(アウトプット)

- 自分の考えを書いたり、まとめたりする際に、何を説明するのか明確にする
 - ・説明する目的の理解：事柄・事実の説明、方法・手順の説明、理由の説明等
 - ・相手に伝わる適切な内容：数学用語や数学的な表現
 - ・より洗練された表現に改める場面の設定：書いたものを相互に見比べる等

振り返り

- 本時の学習の定着を確認したり、次時以降の学びへの接続を図ったりする振り返り
 - ・自分の理解度の確認：適用問題の活用 ※本時の目標や学習評価とつながっているか？
 - ・自分の成長や次の課題の発見：できるようになったこと、さらに学んでみたいことが含まれるように！
※本時の学習課題とまとめを意識して振り返らせることが大切です。

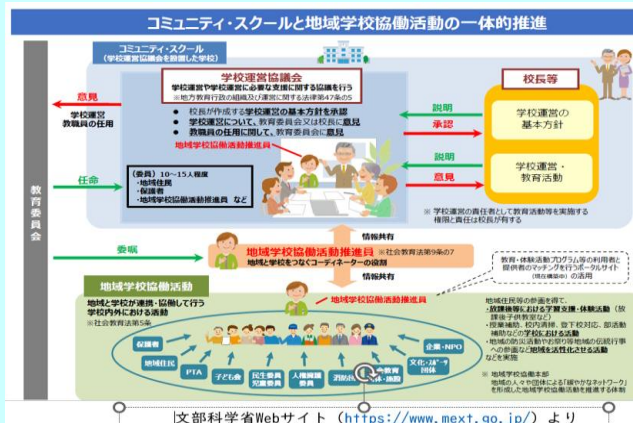
コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について

学校や子供たち、地域が抱える様々な課題は、学校だけでなく、地域全体で解決する必要があります。学校と地域が目標や課題を共有し、協議する仕組みがコミュニティ・スクールです。保護者や地域住民等が当事者意識をもって参画することで、様々な取組が活性化します。

しかし、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動についての理解が進んでいないと、一体的推進をしているつもりでも、実は学校の課題解決のためだけの活動になってしまい、地域にとっては、何のメリットにもなっていない場合があります。コミュニティ・スクールは、単なる地域による学校支援ではありません。学校運営協議会の委員は大半が地域住民です。地域の思いや願いを取り入れ、コミュニティ・スクールの理念を明確にすることで、学校と地域が同じ方向を向くことができ、持続可能な活動となっていきます。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進することにより、相乗効果を発揮し、学校運営の改善や地域づくりが一層進んでいくことが期待されます。皆さんのコミュニティ・スクールの取組状況はいかがでしょう。

県北教育事務所では、昨年度に引き続き、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進事業」を実施しています。学校運営協議会職員研修、学校運営協議会委員研修、会議の企画・運営等学校運営協議会や地域学校協働活動についての相談や研修のお手伝いをします。お気軽にご連絡ください。



コミュニティ・スクール事例 ～秋山コミュニティ・スクール～

秋山コミュニティ・スクールでは、「地域秋山を大切に思う子どもの育成」を目指して、年間を通して熟議を行っています。熟議で話し合った目標やビジョンを柱とし、地域の思いや願いも取り入れながら、地域学校協働活動を支えてくれる「はぎッズ応援隊」とともに、様々な取組を行っています。小学校では、「1年生の入学当初の活動支援」や毎週木曜日の放課後に開設している「がんばる秋山っ子の学習教室」、中学校では、地域連携室「あきやま BASE」をロング昼休に開放し、はぎッズ応援隊の方たちとともに、季節に応じた小物づくりやゲーム、楽器演奏などを行っています。これらの活動は、児童生徒にとっては、豊かな体験の場、地域の方にとっては、児童生徒と楽しみながら交流を深める場となっています。また、地域の方々によるピアノやフルートなどの演奏会「小さなコンサート」は、児童生徒、教職員にとって心落ち着く貴重な癒しの時間となっています。このように、秋山コミュニティ・スクールでは、様々な地域学校協働活動を通して、地域秋山を大切にする児童生徒の育成に努めています。

